

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2015年9月25日

[テーマ] 友人に観光地紹介—群馬を学べ—一石二鳥—

前橋に来てからというもの、東京にいる友人、知人とやりとりする時には必ず、群馬の観光を働きかけることにしている。

そうした働きかけのために、観光スポット、食事処、イベントなどの情報収集に努めてきた。支店の職員にはもちろんのこと、ヒアリング先の企業にもご協力をお願いし、県庁や商工会議所の方からは知人に配るための観光パンフレットを大量に頂いたりもした。

夏休みを経て、実際に群馬を訪れてくれた人もそれなりの数になった。彼らから感謝されるだけでなく、自分自身も群馬のことに詳しくなり、一石二鳥であった。

ところが、ここにきて友人、知人からの苦情が続出している。何があったのか。宿泊したくても、草津や伊香保といった全国的に有名な温泉地の土日祝日の予約はどこもいっぱいだというのである。

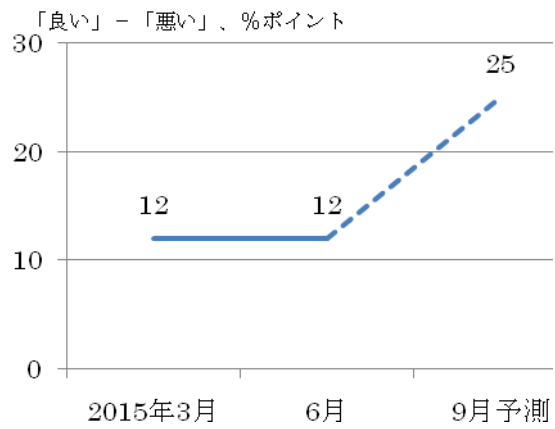
海外旅行は振るわないが、国内旅行は順調に回復してきている。加えて、2500円の販売額に対して2倍の5千円分の使用ができるプレミアム宿泊券の発行。県内の入り込み客数は順調に増えている。

「だから、言わんこっちゃない、早く予約しろと言ったのに」と心の中で思いつつ、今度は彼らのために、宿泊先に関する情報を集めることにした。手にしたのは、「ぐんまの源泉一軒宿」(上毛新聞社刊)。群馬県の温泉地は、草津や伊香保に限らない。既に海外でも有名な宝川温泉をはじめ、魅力的な温泉はたくさんある。

私があまりに真剣に読んでいたからか、隣にいる妻がのぞき込んできた。「もちろん、私達家族が行くところを探しているんでしょうね。この秋はどここの温泉に連れて行ってくれるの？」

慌てて、子ども連れでも受け入れていただけそうな宿を探して、あちこち電話をかけてみるが、案の定どこも予約でいっぱい。妻からの冷たいまなざしを受ける私であった。

県企業短期経済観測調査における 宿泊・飲食サービスの業況判断DI



〔 日本銀行前橋支店長
 神山 一成 〕